

独自の PSTN の受け入れ手順

Webex Cisco ブロードワークスの場合

1 試験手順

独自の PSTN の受け入れ手順	1
Webex Cisco ブロードワークスの場合	1
1 試験手順	1
テストケースの改訂	2
1.1 はじめに	2
1.1.1 高レベルの自己認定手順	2
1.2 前提条件	3
1.2.1 BYoPSTN 冗長ネットワーク プロビジョニング	3
1.2.2 BYoPSTN ローカル DNIS 番号	4
1.2.3 受付用の BYoPSTN 電話番号	4
2 イングレステストケース	5
2.1.1 入力 DTMF/音声検証 BYoPSTN トランク グループ G722	5
2.1.2 入力 DTMF/音声検証 BYoPSTN トランク グループ G711a	5
2.1.3 入力 DTMF/音声検証 BYoPSTN トランク グループ G711u	7
2.1.4 入力 DTMF/音声検証 BYoPSTN トランク グループ G729	7
3 出口テストケース	8
3.1.1 下り DTMF/音声認証 BYoPSTN G722 加入者	8
3.1.2 下り DTMF/音声確認 BYoPSTN G711a 加入者	9
3.1.3 下り DTMF/音声認証 BYoPSTN G711u 加入者	10
3.1.4 下り DTMF/音声確認 BYoPSTN G729 加入者	11
4 フェイルオーバーのテストケース	12
4.1.1 イングレス - プライマリ Webex DC の停止	12
4.1.2 下り - プライマリ BYoPSTN DC の停止	13
5 補助機能	15
5.1.1 Ingress - 保留中 G722	15
5.1.2 Ingress - G722 長時間ミュートされました	16
5.1.3 Ingress - G711a 長時間ミュートされました	16

テストケースの改訂

改訂版	変更	日付 (Date)
1.0	初期リビジョン	2020/1/7
1.1	追加機能を更新しました	2020/1/14
1.3	フェイルオーバーの変更	2020/4/6
1.4	Webex ブランド変更	2021/07/13
1.5	タイトルから頭字語を削除しました	2021/07/14
1.6	高レベルの自己認証ステップを追加	2022/01/10
1.7	BYoPSTN 用語を更新しました。	2022/06/15

1.1 はじめに

システム テスト要件は、Cisco BroadWorks 受け入れ手順の Bring Your Own PSTN (BYoPSTN) Webex、会議機能と機能、BYoPSTN VoIP への相互運用性と準拠の領域をカバーする仕様に基づいています。トランキング、エンドツーエンドのネットワーク冗長性、復元力の確認、および影響評価。

結果がログに記録され、テスト ケースの期待と一致し、それに応じて報告されることが重要です。

1.1.1 高レベルの自己認定手順

Webex ミーティング PSTN 認定チームは、BYoPSTN パートナーが提供する自己認定結果を検証し、アーカイブします。

- 検証 - 認定チームは、デューデリジェンス項目が完了していることを確認します (たとえば、トレース セットは、テスト計画に必要なコール フローを実証する必要があります)。
- アーカイブ - 認定チームは結果を社内に保存します。 **BYoPSTN オンボーディング ダッシュボード** 将来の部門横断的なチームが参照するための Wiki ページ。 目標は、エスカレーションの場合のベースラインとして機能することです。

以下は、Webex ミーティング PSTN 認定チームの境界間の現在のプロセス フローです。

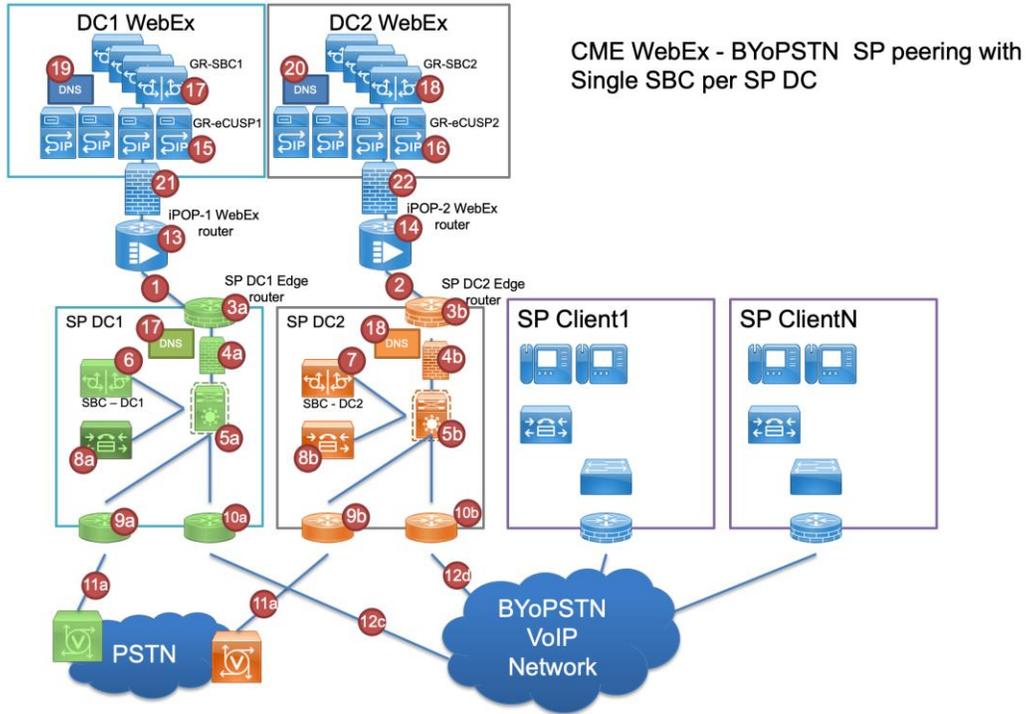
1. カスタマー サクセス マネージャーは、次の参加者を含む外部チーム スペースを作成します。

- パートナーの技術連絡先
 - 技術的なオンボーディング
 - 認定チームリーダー
2. パートナーは、技術的な障害を取り除き、自己認証の証拠要件を満たす方法について、技術的なオンボーディングおよび認証チームと協力します。 Webex ベスト プラクティスを提案したり、技術的なオンボーディングによるトラブルシューティングを促進したりするために、ミーティング エンジニアがチーム スペースに追加される場合があります。
 3. パートナーが自己認証が完了したことを証明すると、カスタマー サクセス マネージャーが **BYoPSTN オンボーディング ダッシュボード** BYoPSTN オンボーディングを使用します **テンプレート** そのパートナー専用の新しい BYoPSTN オンボーディング ページを作成します。 また、カスタマー サクセス マネージャーは、テクニカル オンボーディングおよび認定チームのリーダーに通知して、レビュー プロセスを開始できるようにします。
 4. 認定チームのリーダーは、Cisco Engineering Jira チケット発行システムの GP K2 に、割り当てを待機しているバックログ タスクとしてタスクを作成します。
 5. チケットは、送信された資料を検証できる認定エンジニアに割り当てられます。割り当てられたエンジニアは、ステップ 1 でそのパートナー用に作成されたチーム スペースにも追加されます。
 6. 割り当てられたエンジニアは、パートナーの技術担当者に連絡して、コメント、フィードバック、または追加の問い合わせを提供します。
 7. エンジニアは、パートナーが提出した資料を正常に検証すると、カスタマー サクセス マネージャーと技術オンボーディング チームに通知します。
 8. テクニカル オンボーディング チームは残りのダッシュボード要件を完了し、そのパートナーの BYoPSTN オンボーディング ページを更新します。 **BYoPSTN オンボーディング ダッシュボード**。

1.2 前提条件

1.2.1 BYoPSTN 冗長ネットワーク プロビジョニング

BYoPSTN に少なくともデュアル DC があり、TCP/IP ネットワーク経由で接続が到達可能であり、接続が E.164 形式でルーティングされていることを検証します。



1.2.2 BYoPSTN ローカル DNIS 番号

プロビジョニングされた DNIS を検証する
表 1

国	プロンプト	DNIS
1	アメリカ合衆国	英語
2	フランス	フランス語、英語英国
3	ドイツ	ドイツ語、英語英国

1.2.3 受付用の BYoPSTN 電話番号

表 2

電話	機能	Webex に転送されました
1	発信者 1/G722	DID1 - _____
2	発信者 2/G722	DID2 - _____
3	発信者 3/G711a	DID3 - _____
4	発信者 4/G711a	DID4 - _____
5	発信者 5/G711u	DID5 - _____
6	発信者 6/G711u	DID6 - _____
7	発信者 7/G729	DID7 - _____

2 イングレステストケース

2.1.1 入力 DTMF/音声検証 BYoPSTN トランク グループ G722

テストの目的

このテスト ケースの目的は、Webex BYoPSTN トランク グループに送信されたイングレス コールが G722 として受け入れられ、適切なローカル プロンプトと最初のプロンプト中に入力された番号で適切な言語で繰り返されて応答し、2 番目の参加者が参加後に最初の参加者の声を聞くことができることを確認することです。会議。

テスト手順

1. テスターはブロードワークスから BYoPSTN が提供する番号 DID1 テーブルに通話を発信します。
2. 最初の音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
3. 発信者 1 に関連付けられた有効なエントリによるプロンプトの中断: _____# _____#
4. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
5. 2 番目のテスターは、ブロードワークスから BYoPSTN が提供する番号に電話をかけます。この番号は、テーブル 1 のローカリゼーションに関連付けられています。
6. 最初の音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
7. 発信者 2 に関連付けられた有効なエントリによるプロンプトの中断: _____# _____#
8. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
9. 両方の参加者がお互いの声を聞こえることを確認します
10. 発信元のデバイスからの通話を切断します。
11. 結果を記録します。

予想された結果

1. DNIS に発信され、ローカライズされたプロンプトの適切な組み合わせで応答された通話。
2. 正しい会議に参加すると、ID 番号に対して適切なローカリゼーション プロンプトが表示されます。
3. 両方の参加者がお互いの声を聞くことができます
4. 通話は正常に終了します。

2.1.2 入力 DTMF/音声検証 BYoPSTN トランク グループ G711a

テストの目的

このテスト ケースの目的は、Webex BYoPSTN トランク グループに送信されたイングレス コールが G711a として受け入れられ、適切なローカル プロンプトと最初のプロンプト中に入力された番号で適切な言語で繰り返されて応答し、2 番目の参加者が参加後に最初の参加者の声を聞くことができることを確認することです。会議。

テスト手順

1. テスターはブロードワークスから BYoPSTN が提供する番号 DID1 テーブルに通話を発信します。
2. 最初の音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
3. 発信者 3 に関連付けられた有効なエントリによるプロンプトの中断: _____# _____#
4. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
5. 2 番目のテスターは、ブロードワークスから BYoPSTN が提供する番号に電話をかけます。この番号は、テーブル 1 のローカリゼーションに関連付けられています。
6. 最初の音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
7. 発信者 4 に関連付けられた有効なエントリによるプロンプトの中断: _____# _____#
8. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
9. 両方の参加者がお互いの声を聞こえることを確認します
10. 発信元のデバイスからの通話を切断します。
11. 結果を記録します。

予想された結果

1. DNIS に発信され、ローカライズされたプロンプトの適切な組み合わせで応答された通話。
2. 正しい会議に参加すると、ID 番号に対して適切なローカリゼーション プロンプトが表示されます。
3. 両方の参加者がお互いの声を聞くことができます
4. 通話は正常に終了します。

2.1.3 入力 DTMF/音声検証 BYoPSTN トランク グループ G711u

テストの目的

このテスト ケースの目的は、Webex BYoPSTN トランク グループに送信されたイングレス コールが、G711u が適切なローカル プロンプトと、最初のプロンプト中に入力された番号を適切な言語で繰り返し応答するときに受け入れられること、2 番目の参加者が会議に参加した後、1 番目の参加者の声を聞くことができることを確認することです。。

テスト手順

1. テスターはブロードワークスから BYoPSTN が提供する番号 DID1 テーブルに通話を発信します。
2. 最初の音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
3. 発信者 5 に関連付けられた有効なエントリによるプロンプトの中断: _____# _____#
4. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
5. 2 番目のテスターは、ブロードワークスから BYoPSTN が提供する番号に電話をかけます。この番号は、表 1 のローカリゼーションに関連付けられています。
6. 最初の音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
7. 発信者 6 に関連付けられた有効なエントリによるプロンプトの中断: _____# _____#
8. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
9. 両方の参加者がお互いの声を聞こえることを確認します
10. 発信元のデバイスからの通話を切断します。
11. 結果を記録します。

予想された結果

1. DNIS に発信され、ローカライズされたプロンプトの適切な組み合わせで応答された通話。
2. 正しい会議に参加すると、ID 番号に対して適切なローカリゼーション プロンプトが表示されます。
3. 両方の参加者がお互いの声を聞くことができます
4. 通話は正常に終了します。

2.1.4 入力 DTMF/音声検証 BYoPSTN トランク グループ G729

テストの目的

このテスト ケースの目的は、Webex BYoPSTN トランク グループに送信されたイングレス コールがプロバイダー側でトランスコードされ、G711 として受け入れられ、適切なローカル プロンプトと最初のプロンプト中に入力された番号で応答し、適切な言語で繰り返されること、2 番目の参加者であることを検証することです。会議に参加した後、最初の参加者の声を聞くことができます。

テスト手順

1. テスターはブロードワークスから BYoPSTN が提供する番号 DID1 テーブルに通話を発信します。
2. 最初の音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
3. 発信者 7 に関連付けられた有効なエントリによるプロンプトの中断: _____# _
____#
4. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
5. 2 番目のテスターは、ブロードワークスから BYoPSTN が提供する番号に電話をかけます。この番号は、テーブル 1 のローカリゼーションに関連付けられています。
6. 最初の音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
7. 発信者 8 に関連付けられた有効なエントリによるプロンプトの中断: _____# _
____#
8. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
9. 両方の参加者がお互いの声を聞こえることを確認します
10. 発信元のデバイスからの通話を切断します。
11. 結果を記録します。

予想された結果

1. DNIS に発信され、ローカライズされたプロンプトの適切な組み合わせで応答された通話。
2. 正しい会議に参加すると、ID 番号に対して適切なローカリゼーション プロンプトが表示されます。
3. 両方の参加者がお互いの声を聞くことができます
4. 通話は正常に終了します。

3 出口テストケース

3.1.1 下り DTMF/音声認証 BYoPSTN G722 加入者

テストの目的

このテスト ケースは、出力 G722 が Webex によって送信された BYoPSTN 番号加入者に電話をかけ、1 DTMF を押すよう要求するプロンプトなど、適切なローカル プロンプトを再生することを検証することを目的としています。 メッセージは適切な言語で再

生まれ、会議に参加した後、2 人目の参加者は最初の参加者の話を聞くことができます。

テスト手順

1. Webex カンファレンスを作成する
2. 1 番目のテスターが BYoPSTN 番号 DID1 (表 2) へのコールバックを要求し、表 1 からのローカライズされたプロンプトで応答します
3. 音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
4. エントリ 1 DTMF によるプロンプトの中断
5. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
6. 2 番目のテスターは BYoPSTN 番号 DID2 (表 2) へのコールバックを要求し、表 1 からのローカライズされたプロンプトで応答します。
7. 音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
8. エントリ 1 DTMF によるプロンプトの中断
9. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
10. 両方の参加者がお互いの声を聞こえることを確認します
11. BYoPSTN 番号加入者からの通話を切断する
12. 結果を記録します。

予想された結果

1. 通話は DID1 および DID2 番号に発信され、適切なローカライズされたプロンプトで再生されます。
2. 会議に参加している間、両方の参加者は適切なローカライズされたプロンプトを聞くことができます。
3. 音声パスは両方の参加者間で双方向に利用可能です
4. 通話は正常に終了しました。

3.1.2 下り DTMF/音声確認 BYoPSTN G711a 加入者

テストの目的

このテスト ケースは、出力 G711a が Webex によって送信された BYoPSTN 番号加入者に電話をかけ、1 DTMF を押すよう要求するプロンプトなどの適切なローカル プロンプトを再生することを検証することを目的としています。メッセージは適切な言語で再生され、会議に参加した後、2 人目の参加者は最初の参加者の話を聞くことができます。

テスト手順

1. Webex カンファレンスを作成する
2. 1 番目のテスターが BYoPSTN 番号 DID3 (表 2) へのコールバックを要求し、表 1 からのローカライズされたプロンプトで応答します。

3. 音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
4. エントリ 1 DTMF によるプロンプトの中断
5. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
6. 2 番目のテスターは BYoPSTN 番号 DID4 (表 2) へのコールバックを要求し、表 1 からのローカライズされたプロンプトで応答します。
7. 音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
8. エントリ 1 DTMF によるプロンプトの中断
9. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
10. 両方の参加者がお互いの声を聞こえることを確認します
11. BYoPSTN 番号加入者からの通話を切断する
12. 結果を記録します。

予想された結果

1. 通話は DID3 および DID4 番号に発信され、適切なローカライズされたプロンプトで再生されました。
2. 会議に参加している間、両方の参加者は適切なローカライズされたプロンプトを聞くことができます。
3. 音声パスは両方の参加者間で双方向に利用可能です
4. 通話は正常に終了しました。

3.1.3 下り DTMF/音声認証 BYoPSTN G711u 加入者

テストの目的

このテスト ケースは、出力 G711u が Webex によって送信された BYoPSTN 番号加入者に電話をかけ、1 DTMF を押すよう要求するプロンプトなどの適切なローカル プロンプトを再生することを検証することを目的としています。 メッセージは適切な言語で再生され、会議に参加した後、2 人目の参加者は最初の参加者の話を聞くことができます。

テスト手順

1. Webex カンファレンスを作成する
2. 1 番目のテスターが BYoPSTN 番号 DID5 (表 2) へのコールバックを要求し、表 1 からのローカライズされたプロンプトで応答します。
3. 音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
4. エントリ 1 DTMF によるプロンプトの中断
5. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
6. 2 番目のテスターは BYoPSTN 番号 DID6 (表 2) へのコールバックを要求し、表 1 からのローカライズされたプロンプトで応答します。

7. 音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
8. エントリ 1 DTMF によるプロンプトの中断
9. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
10. 両方の参加者がお互いの声を聞こえることを確認します
11. BYoPSTN 番号加入者からの通話を切断する
12. 結果を記録します。

予想された結果

1. 通話は DID5 および DID6 番号に発信され、適切なローカライズされたプロンプトで再生されました。
2. 会議に参加している間、両方の参加者は適切なローカライズされたプロンプトを聞くことができます。
3. 音声パスは両方の参加者間で双方向に利用可能です
4. 通話は正常に終了しました。

3.1.4 下り DTMF/音声確認 BYoPSTN G729 加入者

テストの目的

このテスト ケースは、出力 G711 が BYoPSTN に呼び出し、Webex によって送信され、BYoPSTN 加入者用の G729 コーデックにトランスコードされて、1 DTMF を押すよう要求するプロンプトなど、適切なローカル プロンプトを再生することを検証することを目的としています。 メッセージは適切な言語で再生され、会議に参加した後、2 人目の参加者は最初の参加者の話を聞くことができます。

テスト手順

1. Webex カンファレンスを作成する
2. 1 番目のテスターが BYoPSTN 番号 DID7 (表 2) へのコールバックを要求し、表 1 からのローカライズされたプロンプトで応答します
3. 音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
4. エントリ 1 DTMF によるプロンプトの中断
5. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
6. 2 番目のテスターは BYoPSTN 番号 DID8 (表 2) へのコールバックを要求し、表 1 からのローカライズされたプロンプトで応答します。
7. 音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
8. エントリ 1 DTMF によるプロンプトの中断
9. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
10. 両方の参加者がお互いの声を聞こえることを確認します

11. BYoPSTN 番号加入者からの通話を切断する
12. 結果を記録します。

予想された結果

1. 通話は DID7 および DID8 番号に発信され、適切なローカライズされたプロンプトで再生されました。
2. 会議に参加している間、両方の参加者は適切なローカライズされたプロンプトを聞くことができます。
3. 音声パスは両方の参加者間で双方向に利用可能です
4. 通話は正常に終了しました。

4 フェイルオーバーのテストケース

4.1.1 イングレス - プライマリ Webex DC の停止

テストの目的

このテスト ケースは、DC の停止中に Webex へのイングレス コールが正常に行われ、会議に参加した後に両方の参加者がお互いの声を聞くことができることを検証することを目的としています。

テスト手順

1. プライマリ Webex DC による BGP フェイルオーバーの呼び出し
2. テスターはブロードワークスから BYoPSTN が提供する番号 DID1 テーブルに通話を発信します。
3. 最初の音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
4. 発信者 1 に関連付けられた有効なエントリによるプロンプトの中断: _____# _____#
5. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
6. 2 番目のテスターは、ブロードワークスから BYoPSTN が提供する番号に電話をかけます。この番号は、テーブル 1 のローカリゼーションに関連付けられています。
7. 最初の音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
8. 発信者 2 に関連付けられた有効なエントリによるプロンプトの中断: _____# _____#
9. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
10. 両方の参加者がお互いの声を聞こえることを確認します
11. 発信元のデバイスからの通話を切断します。
12. BGP ルートを回復する
13. 結果を記録します。

予想された結果

1. DNIS に発信され、ローカライズされたプロンプトの適切な組み合わせで応答された通話。
2. 正しい会議に参加すると、ID 番号に対して適切なローカリゼーション プロンプトが表示されます。
3. 両方の参加者がお互いの声を聞くことができます
4. 通話は正常に終了します。

4.1.2 下り - プライマリ BYoPSTN DC の停止

テストの目的

このテスト ケースの目的は、DC の停止中に BYoPSTN への出力コールが正常に行われ、会議に参加した後に両方の参加者がお互いの声を聞くことができることを検証することです。

テスト手順

1. プライマリ BYoPSTN DC BGP フェイルオーバーの呼び出し
2. Webex カンファレンスを作成する
3. 1 番目のテスターが BYoPSTN 番号 DID1 (表 2) へのコールバックを要求し、表 1 からのローカライズされたプロンプトで応答します
4. 音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
5. エントリ 1 DTMF によるプロンプトの中断
6. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
7. 2 番目のテスターは BYoPSTN 番号 DID2 (表 2) へのコールバックを要求し、表 1 からのローカライズされたプロンプトで応答します。
8. 音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
9. エントリ 1 DTMF によるプロンプトの中断
10. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
11. 両方の参加者がお互いの声を聞こえることを確認します
12. BYoPSTN 番号加入者からの通話を切断する
13. BGP ルートを回復する
14. 結果を記録します。

予想された結果

1. 通話は DID1 および DID2 番号に発信され、適切なローカライズされたプロンプトで再生されます。

2. 会議に参加している間、両方の参加者は適切なローカライズされたプロンプトを聞くことができます。
3. 音声パスは両方の参加者間で双方向に利用可能です
4. 通話は正常に終了しました。

5 補助機能

5.1.1 Ingress - 保留中 G722

テストの目的

このテスト ケースの目的は、メディアが変更された場合に、BYoPSTN が提供するプロバイダーが re-Invite を消費することを確認することです。

テスト手順

1. テスターはブロードワークスから BYoPSTN が提供する番号 DID1 テーブルに通話を発信します。
2. 最初の音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
3. 発信者 1 に関連付けられた有効なエントリによるプロンプトの中断: _____# _____#
4. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
5. 2 番目のテスターは、ブロードワークスから BYoPSTN が提供する番号に電話をかけます。この番号は、テーブル 1 のローカリゼーションに関連付けられています。
6. 最初の音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
7. 発信者 2 に関連付けられた有効なエントリによるプロンプトの中断: _____# _____#
8. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
9. 両方の参加者がお互いの声を聞こえることを確認します
10. DID3 から DID1 に電話をかける
11. 発信者 1 は電話会議を保留します
12. 発信者 1 は DID3 で通話を終了し、電話会議を再開します
13. 発信者 1 と発信者 2 の両方の参加者がお互いの声を聞くことができることを確認します
14. 発信元のデバイスからの通話を切断します。
15. 結果を記録します。

予想された結果

1. DNIS に発信され、ローカライズされたプロンプトの適切な組み合わせで応答された通話。
2. 正しい会議に参加すると、ID 番号に対して適切なローカリゼーション プロンプトが表示されます。
3. 両方の参加者は、通話が保留される前と再開後にお互いの声を聞くことができます。
4. 通話は正常に終了します。

5.1.2 Ingress - G722 長時間ミュートされました

テストの目的

このテスト ケースの目的は、コーデック G722 に提供される BYoPSTN が RTP ストリーム (30 分) を中断することなく継続的に送信でき、パケット抑制を使用しないことを検証することです。

テスト手順

1. テスターはブロードワークスから BYoPSTN が提供する番号 DID1 テーブルに通話を発信します。
2. 最初の音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
3. 発信者 1 に関連付けられた有効なエントリによるプロンプトの中断: _____# _
_____#
4. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
5. 2 番目のテスターは、ブロードワークスから BYoPSTN が提供する番号に電話をかけます。この番号は、テーブル 1 のローカリゼーションに関連付けられています。
6. 最初の音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
7. 発信者 2 に関連付けられた有効なエントリによるプロンプトの中断: _____# _
_____#
8. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
9. 両方の参加者がお互いの声を聞こえることを確認します
10. 発信者 1 は電話会議デバイスをミュートにします
11. 発信者 1 は、電話会議デバイスをミュートから再開します。
12. 発信者 1 と発信者 2 の両方の参加者がお互いの声を聞くことができることを確認します
13. 発信元のデバイスからの通話を切断します。
14. 結果を記録します。

予想された結果

1. DNIS に発信され、ローカライズされたプロンプトの適切な組み合わせで応答された通話。
2. 正しい会議に参加すると、ID 番号に対して適切なローカリゼーション プロンプトが表示されます。
3. 両方の参加者は、通話がミュートになる前と再開後にお互いの声を聞くことができます。
4. 通話は正常に終了します。

5.1.3 Ingress - G711a 長時間ミュートされました

テストの目的

このテスト ケースの目的は、コーデック G711a の BYoPSTN が RTP ストリーム (30 分) を中断することなく継続的に送信でき、パケット抑制を使用しないことを検証することです。

テスト手順

1. テスターはブロードワークスから BYoPSTN が提供する番号 DID1 テーブルに通話を発信します。
2. 最初の音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
3. 発信者 3 に関連付けられた有効なエン트리によるプロンプトの中断: _____# _____#
4. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
5. 2 番目のテスターは、ブロードワークスから BYoPSTN が提供する番号に電話をかけます。この番号は、テーブル 1 のローカリゼーションに関連付けられています。
6. 最初の音声プロンプトが指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
7. 発信者 4 に関連付けられた有効なエン트리によるプロンプトの中断: _____# _____#
8. 会議への参加成功に関するプロンプトが、指定されたローカリゼーションに従って応答したことを確認します。
9. 両方の参加者がお互いの声を聞こえることを確認します
10. 発信者 3 は電話会議デバイスをミュートにします
11. 発信者 3 は、電話会議デバイスをミュートから再開します。
12. 発信者 3 と発信者 4 の両方の参加者がお互いの声を聞くことができることを確認します
13. 発信元のデバイスからの通話を切断します。
14. 結果を記録します。

予想された結果

1. DNIS に発信され、ローカライズされたプロンプトの適切な組み合わせで応答された通話。
2. 正しい会議に参加すると、ID 番号に対して適切なローカリゼーション プロンプトが表示されます。
3. 両方の参加者は、通話がミュートになる前と再開後にお互いの声を聞くことができます。
4. 通話は正常に終了します。